

なぜ海外の大学に進学しましたか？と問われれば、私は「自分という人間と世界をもっと知りたかったから」と答えるでしょう。自分がハーフだということもあり、昔から自分が2つのアイデンティティを持っていることを自覚し、アイデンティティに関わることについて敏感に反応していました。「自分のアイデンティティがどのように形成されているのか」「どのように自己を表現していけるのか」不安でもあり、疑問でもありました。このような疑問を持っていた中学生の私はアイデンティティを形作る要素である言語や文化に興味があり、地元小樽を出て札幌国際情報高校の国際文化科に進学することを決めました。

国際情報高校での生活は漠然と海外の大学に進学したいと思っていた私の夢を目標に変えてくれるきっかけをくれました。高校生の時に経験した、授業でのプレゼンテーションやディスカッション、そして校外活動の数々は私が持っていたアイデンティティや文化についての疑問をさらに深く考えるきっかけをくれました。国際情報高校で私は世の中の様々な事に興味や疑問を持つことの大切さを学んだと思っています。今振り返ってみると、この日常の中に潜むちょっとした違和感に気がつくことが、自分の周りの世界への探究心を掻き立ててくれたと思います。日々の勉強や生活の中で、「なぜこのようなことが起こっているのか？」や「これはおかしくないのか？」ということに向き合おうとすることが学ぶことのモチベーションでした。高校生の時にプレゼンテーションやディスカッションを通じて自分の考えや周りの人の考えに向き合うことが私の「海外の大学に行きたい！」という夢を具現化する助けになりました。

私は自分のアイデンティティのこともあり、どのように自分のアイデンティティが言語を通じて表現されているのか？ということに興味を持ち、言語学を学ぶことを決めました。言語なしに自分のアイデンティティは表現できないと考えていたからです。しかしアイデンティティ形成は周囲の社会や政治にも深く結びついている分野です。貪欲にどちらの観点からもアイデンティティについて学びたいと思い海外の大学を探しました。進路相談を通じて日本の大学も探し様々な選択肢を提示してもらいましたが、自分の興味にフィットする環境を日本では見つけられず、選択肢の幅の狭さを感じていたからです。あくまで自分の力で自分に合った大学を幅広い選択肢から選びたいと思い、見つけた大学が今通っているオランダにある Rijksuniversiteit Groningen です。

大学では言語学と政治学を並行して学び、英語のみならずドイツ語でも授業も受けています。正直未だに自分の英語力や日本で学んできた知識量、プレゼンテーションの経験数などが

足りず苦勞することもあります。しかし自分で見つけて選んだ道だからこそ挑戦し続けようと思えます。自分が社会のマイノリティーとして生きること、そして自分の見えている世界は自分の生まれ育った環境や言語によって形作られていることを自分の身をもって感じることは他では得られない経験です。例えば自分が虹を7色だと思っているのは、日本では虹が7色だと言われその7色を表す色の名前があるからです。言語によっては青と緑を同じ色だと捉え、青と緑という色に対して1つの言葉で表現する言語もあります。このように自分が見えている現実には自分の育ってきた環境と言語に影響されているということや、社会と言語のつながりについて大学で学んでいます。これらが人々のアイデンティティ形成にどう繋がっているのか？まだまだ私の探究心もつきません。自分の学びたいと思ったことを楽しんで貪欲に学べる環境を見つけられたことがとても幸せです。

ハーフだから海外の大学に？と言われることも多々あります。もちろんハーフだというアイデンティティが自分の選択に大きく影響していることは確かです。しかしそれらを除いても、日本の中だけという選択肢の幅に疑問を持っていたことは確かです。留学をすべきだということではなく、ぜひ色々なものを経験して自分と向き合い、自分のやりたいことを自分で探してみてください。自分で見つけた道だからこそ責任やリスクも伴いますが、自分でやってみるという経験は人から与えられた道を進むよりも沢山のものを私にもたらしてくれました。留学したからといって自分自身がドラマチックに変わったわけではありませんが、日本にいた時よりもさらに自分が将来選択できるであろう、無数の道が見えるようになりました。今勉強していることがどう自分の将来につながるのか私もわかりませんが、それでも自分の興味のあることをこれからも学び続けていきます。何かを疑問に思うことや探究心を持つことがきっと視野を広げ、今までに見えなかった選択肢を見せてくれると私は思っています。ぜひみなさんも自分自身で自分の進みたいと思う道を見つけてみてください。

